

絵図を基にした弥彦～新潟間のまちあるきマップの作成について

藤田晴啓・太田和宏

A study on spatial recognition of illustrated town-walking maps

Haruhiro FUJITA and Kazuhiro OTA

Abstract: A town walking map, depicting Hokurikudo's route between Yahiko and Niigata, illustrating historical sites and modern landmarks, was made. The historical changes in the Hokurikudo's route were studied referring the illustrated and surveyed maps in Edo to Showa Eras, and the route in each Era was depicted in the map. The map was simulated as historical illustrated maps, depicting deformed mountain ranges, agricultural fields, wind break forests, with modern public facilities. Those route signs, stone monuments and shrine-temples, were illustrated on the map as historical landmarks for the self-learning town walking.

Keywords: 北陸道 (Hokuriku-do), 国絵図 (illustrated country maps), 村絵図 (illustrated rural maps), まちあるきマップ (town walking map), 史跡 (historical sites)

1. はじめに

現在、新潟市西蒲区および西区では、主要街道であった北陸道（通称：北国街道）を対象とした地域住民と大学による各種地域活動が実施されている。特に西区では平成 24 年度に「佐潟観光ガイド養成・マップ作成」が始まり、北陸道～佐潟周辺の、散策マップ作りが計画されている。

本研究では、江戸～昭和時代の絵図および地図を参考に、弥彦～新潟間の北陸道の変遷を調査し、史跡や公共物を盛り込んだ広域“まちあるきマップ”にその変遷を再現した。

2. 北陸道の変遷

北陸道がどのように変遷をしたのかを検証するため、江戸～昭和時代の絵図および地図を調査した。新潟県立図書館に所蔵される国絵図および地図、さらに弥彦～新潟間の地域の村絵図などを検証に使用した。最も古い国絵図として江戸初期の正保 2 年(1645 年)に作成された『正保越後絵図』(新発田市立図書館所蔵)がある。

『正保越後絵図』および新しい時代の絵図を比較すると、集落が徐々に形成されるとともに北陸道のルートが変化したことが判別できた。『正保越後絵図』にある弥彦～新潟間の北陸道は、弥彦から布目集落まで多宝山や角田山の麓を通り、赤塚集落より内陸部から日本海沿岸部に出て、海岸線に沿って新潟へと通じていた（図-1）。

一方、江戸中期以降の絵図からは、『正保越後絵図』に描かれていない、新しい集落が砂丘を挟んだ反対側の内陸部に形成され、明治初期まで赤塚集落から内野集落（内野町）を経由して下五十嵐集落から従来の海岸線のルートを通り新潟へと通じていた。海岸線のルートを「浜通り」と呼び、内陸ルートは「中通り」と呼ばれていた。

さらに、『越後輿地全図』(新潟県立図書館所蔵)には、「此道赤塚ヨリ岩室ヘニリ(二里)明治七戌年ノ年ノ頃ヨリ本道トナル」と記され、岩室集落～布目集落間の道が明治 7 年頃 (1874 年) に本道となったと記載されている。

明治 11 年 (1878 年) の明治天皇北陸巡幸に合

わせて、内野集落～下五十嵐集落間の砂丘を越えるルートから、西川の一部を埋め立て、土手沿いを通り新潟へと通じるルートに変更されたことが明らかとなった（図-1）。

3. まちあるきマップの地図情報

弥彦～新潟間の“まちあるきマップ”作成では、北陸道の変遷について時代ごとに示し、ルートの変化がわかるようにした。また現地調査を行い、関係地域の道標や石碑、社寺等のポイントを示し、まちあるきの目標物とした。

絵図を参考に手書きで現在の地図を作成し、山並みや河川、田畠、防風林、公共施設等の地図情報をデフォルメして地形の情報として記載した。また、まちあるきマップの目標物、見所と思えるポイント（桜並木、店舗等）や、旧河川・旧潟跡などの昔の地形情報も加えた。

4. マップの課題

今回作成したマップは、細かい道路や信号などの情報は記載していない。簡単なドライブ感覚で使用することや“まちあるき”に使用する目的で、目標物を示しているのみである。

このマップを基に、さらに詳細な地域の“まちあるきマップ”を作成することが必要で、作成者の視点を活かし、さまざまなコースの設定とそれに応じた地図情報やポイントなどを示していくことも必要であると考えられる。

5. おわりに

“まちあるきマップ”的作成は、全国各地で盛んに行われており、筆者らは北陸道の変遷をイラスト化し、新潟～弥彦間の“歴史的背景を学習できる、まちあるきマップ”を作成した。

今後は、“まち”毎に分けた細かい“詳細まちあるきマップ”的作成と GLOBALBASE を利用した全体および詳細マップの閲覧を介し、幅広い地域活動につなげていきたい。

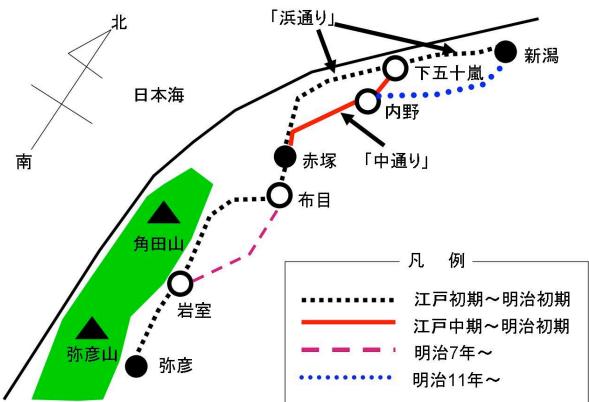


図-2 新潟～弥彦間の北陸道の変遷

参考文献

- 『正保越後絵図』(正保2年, 1645年), 新発田市立図書館所蔵.
- 『赤塚村絵図』(寛延4年, 1751年), 赤塚公会堂所蔵.
- 『越後国絵図』(江戸中期), 新潟県立図書館所蔵.
- 『越後国全図』(享和2年, 1802年), 新潟県立図書館所蔵.
- 『越後輿地全図』(文政元年, 1818年), 新潟県立図書館所蔵.
- 『赤塚土地截絵図』(明治8年, 1875年), 赤塚公会堂所蔵.
- 『新潟市全図』(明治34年, 1901年), 新潟県立図書館所蔵.
- 『西蒲原郡図』(明治41年, 1908年) 新潟県立図書館所蔵.
- 『明治天皇聖蹟誌』(大正11年11月, 1922年), 中野財團刊行.
- 『日本図誌大系 中部II』(昭和49年6月, 1974年), 朝倉鑄造刊.
- 『新潟県歴史の道調査報告書第5集』(平成5年3月, 1993年), 新潟県教育委員会刊.